

2023年  
7月1日  
第471号



# JR東海労



〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-6-5

TEL 03-3201-0350 FAX 3201-0351

Eメール jrtoukairou@yahoo.co.jp

JR東海労働組合

発行人 淵上 利和  
編集人 高山 浩

http://jrtoukairou.sakura.ne.jp/

## 新委員長に淵上さん、新役員体制確立！

### 第39回定期大会開催



JR東海労は6月11日、名古屋市内で第39回定期大会を開催しました。議長に加藤代議員(名古屋地本)を選出しました。来賓として、JR総連山口委員長、熊谷書記長、OB会福島会長、前関ヶ原町議会議員が出席しました。楠さんの議員ご勇退を慰労するためのセレモニーを開催し、各地本・分会から檄が渡されました。質疑の後、各部答弁、本橋書記長の総括答弁、新役員を選出などを行い、大会は成功裡に終了しました。

### 年休裁判の勝利を更なる闘いに繋げよう！

#### 木下中央執行委員長挨拶



2023春闘において、「35歳ポイント1,000円の賃上げ」と回答した会社と、それを成果だと押し出した御用組合・JR東海ユニオンを糾弾します。闘ってきた各地本・分会の皆さんに感謝申し上げます。NATOに全面バック

アップされたウクライナと、ロシアの戦争は、開戦から1年4ヶ月余り経ちますが、収束に向かう気配はありません。むしろ、世界中に飛び火しようとしていきます。ロシアはウクライナとの戦争において「核の使用」をちらつかせるなど、世界は既にあらたな戦前、あるいは戦中と言つて過言ではないと思います。

日本は、安保関連3文書の改定で、「反撃能力」という名で他国に攻め込めるという能力を日本もすでに、戦争をする国になり、人殺しの道具で食っていく国になったといふことが言えると思えます。今後はそもそもが憲法違反の専守防衛をストップアップし、軍事大国化の道を突き進んでいくということですね。

G7広島サミットに、ゼレンスキー大統領が登場しましたが、サミット参加各国に更なる武器援助を取り付けるために来

ると認定し、結果、年休を失効させたことについて、JR東海は年休権の趣旨を逸脱した運用をしていると断じたこと、要員カバリのために計画的に休日勤務を行うのは、休日勤務の用途としては間違いとされたことなどから、勝利判決と打ち出しました。

証言に立つて頂いた和光大学の竹信名誉教授のご尽力で、『週刊金曜日』の記事が載ったことで、公休も年休も休めれば一緒だとか、年休は年間5日付与すればいいとか、年休を取ったら賃金カットするとか、ボーナス査定に反映するといった、世の中の風潮や間違った考えに一定の楔を打ち込めたと感じています。

7月6日には、大谷川さんが原告の大阪訴訟も判決を迎えます。こちらも勝利判決は間違いのないところですから、共に喜び合いたいと思います。

国鉄改革から35年が経ちました。少子高齢化とコロナ禍によるJR各社の経営状態の悪化を背景に、資本制社会の再構築の一環として、コンパクトシティーづくりが目指され、またぞろ鉄道の地方交通線問題が頭をもたげてきました。4月21日、「改正地域公共交通活性化法」が成立しました。コンパクトシティーを結ぶ鉄道以外は切り捨て、あ

るいは輸送モード転換が

目指されています。経営破綻を招きかねないリニア構想は、3大都市圏を超高速度鉄道で結び、巨大都市圏を構築するものです。世界からヒト・モノ・カネを呼び込む役目を担っています。これも、資本の生き残り策です。

会社が昨年10月に公表した「JR東海における鉄道の将来像」実現に向けて、「お客様サポートサービス」の導入駅拡大、駅無人化の拡大、東海キオスクとJRCPとの合併など、様々な効率化施策の導入と事業再編が行われています。今後は更に、ワンマン運転の拡大やEX-ICサービスの拡大などで車掌職場や駅の出改札業務の縮小に繋がります。仕事と職場がなくなる予感がますます強まっています。2028年度には、東海道新幹線の半自動運転が目指されています。

駅係員と乗務員の兼務発令や関連会社への出向拡大は、JR東海本体だけでなく関係会社も含めた人事運用、つまり「ジョブローテーション」的人事運用が、JR東海でもやられようとしていることだと思えます。

会社は業務改革で効率化を通じて、最新技術を導入し「より安全で、より便利で、より快適な鉄道」を目指すとされています。果たして、本当にそ

【2面に続く】



うなるのでしょうか。社員がいない駅とワンマン列車で、ハンディキャップのある方、ベビーカーを使う方など、様々な事情を抱えた利用者に必要な対応ができるのか、自然災害などで列車運行が不能になった場合など、迅速な復旧ができるのか、非常に危惧します。

交通政策基本法では、高齢者、障がい者、妊産婦等の円滑な移動のための施策として、国が必要な施策を講ずるとされ、また、大規模な災害が発生した場合における迅速

## 安全・平和・人権を守る闘いを展開する！

### JR総連山口執行委員長



JR総連は6月5日、第39回定期大会を開催しました。大会では、2023JR総連春闘の総括について、「統一要求・統一闘争」にこだわってきた成果が多く発言されました。「統一要求・統一闘争」ということを浸透させることは簡単ではありません。JR東海労の仲間、JR総連の強化にこだわって闘いをつくり続けてくれました。この3年間、「連帯・共

な回復等に必要の施策として、国が交通手段の整備その他必要な施策を講ずる、とされています。会社が描く鉄道の将来像は、法律の趣旨を無視した、儲けにならない利用者排除し、儲けになる対象者に資本を集中させ、交通弱者切り捨てで生き残りを図るものです。

私たちは、一つひとつにこだわり、目的は何なのか、労働者にどのような不利が生まれるのかなど、職場の中で問題提起をしていきたいと思います。

「闘」にこだわった闘いを各単組の仲間たちは本当によくつくり出してくれました。戦術的にも組織的にも大きな前進を勝ち取りました。

そもそも「連帯・共闘」という問題意識は、JR総連運動の強化だけではなく、日本労働運動の強化にとっても必要不可欠の課題です。連合、交運労協のご来賓にも、その必要性を訴えさせていたできました。

2024JR総連春闘に向けては、コロナ禍以降の社会変容により、会社経営を鉄道の営業収入にだけに頼ることは限界が来るといふ厳しい状況

があります。政治・経済状況、インバウンドの動向や鉄道以外の分野による収入、生産性向上に向けた組合員の努力の現状などを掴みながら、要求の根拠を練り上げていかなければなりません。連帯・共闘関係の広がりを目指し、賃上げの流れを止めないための闘いを実践的につくり上げていきたいと思えます。

総連大会で、「JR東日本は『グループ安全計画2018』で『原因究明』という言葉もなくした。『安全計画2023』で個人の安全行動を重視し、組織マネジメントの観点を消した。安全に対する個人の問題がクローズアップされるようになった。松崎さんが労使でつくり出した『責任追及から原因究明へ』という安全哲学を転換している」という発言がありました。JR東日本の夏季手当回答書を見ると、「安全」の文字はどこにも見当たりません。

会社の安全に対する組織マネジメントが著しく低下している現実を強く感じます。松崎さんは1989年の政策フォーラムで「処罰への恐怖感」ということを述べています。「列車遅延の責任をどう問われるかというあんな種の恐怖感が体内に蓄積されてしまっている」と指摘しています。現在にも通じます。安全を蔑

ろにして、「昇進」や「昇給」という本末転倒の価値観が職場に渦巻いていることは歪めません。どこかで断ち切らなければなりません。JR総連は安全に関して妥協することなく、団結力を発揮して闘います。

JR東日本の官僚的な労務管理について述べます。人事異動に関して、本人の現状を無視した事前通知の強行により、心の病に追い込まれた組合員がいます。「懲罰的な日勤教育」も問題です。「ヒューマニズム」とは「非人間的なものと闘う」ことを意味します。JR

## 原点は青年部運動

### 前関ヶ原町議会議員



総連は、連合や交運労協の仲間、JR総連推薦議員懇談会の皆さんとも現実を共有し、闘いをつくり上げます。

社会全体がコロナ禍で受けた打撃を跳ね返すため、軍備増強・戦争体制の強化、DXやGX、労働移動を通じた生産性向上、働き方改革のための諸法制の整備など、様々な施策を実施していく背景で、労働者を取り巻く環境は悪化する一方で、まさに「命と生活の危機」です。JR総連は、労働者に犠牲を強いる一切の動きに反対します。共に闘いましょう。

私は、本年4月の選挙をもって、関ヶ原町議会議員を引退しました。4期16年間、JR総連・JR東海労の組織内議員として支援いただき心より御礼申し上げます。選挙の都度、多くの皆さまに、遠くから応援に駆けつけていただき、本当にありがとうございました。60歳の定年を迎えた16年前、統一地方選挙の年

がありました。

私は、国や政府が声高に進める政策には、一旦立ち止まって、背景や狙いを考えることにしています。合併問題で勉強会を開いたり、合併問題を考える会を立ち上げ、チラシ配布、新聞折り込み、賛成派の町長との討論会を重ねてきました。そして、住民意識調査を実施させ、結果、合併反対派が70%を超え、合併は頓挫しました。

私はこの実践を通じ、1人では弱い住民であっても、仲間をつくり闘いを続ければ道は拓けることを学びました。この経験があり、平和運動やリニア・原発など、JR東海労の課題を少しでも地域に広げるために地方議員も必要だと考え、議員への道を選びました。

で、地元から町議会議員への立候補を要請されました。私は、専任社員で残るか、議員に挑戦するか悩みました。それは、在職中から地域活動を続け、住民運動を立ち上げ、行政にも言い続けてきたこともあり、住民の期待が大きかったからだと思えます。生まれ育った町が人口減少により寂れ、疲弊した町を何とかしなければと強い使命感を持ちました。加えて、時の小泉政権により市町村合併が強引に進められている時でした。合併に反対する者は、非国民の如くの風潮

によって組合員の雇用は守られました。国鉄改革の闘いは、労働組合の原点とは何かをもう一度我々に突きつけました。役員は自己保身ではなく、組合員の怒り、要求解決のために力を尽くすこと、当たり前のことですが、そのことを確認しなければなりません。

これまでで一番の衝撃と怒りは、会社・警察権力と一体となった石川さん、京力さん、加藤さんへの不当解雇です。関ヶ原町教育長をはじめ何人かに署名を頂きました。核兵器廃絶を政府に要望する意見書には、自らが発議者となり採択しました。嬉しかったことは、松山さん、田川さん、水野さん、刀谷さんが加入されたことです。心から敬意を表します。

これまでの労働運動で学んだこと、それは、仲間を信頼すること、裏切らないこと、私が最も大切にしていることです。これまで世界の民主主義は、最初はいつも少数の人たちの勇気ある行動によって前進してきました。道は拓けることを信じて歩んでいきたいと思います。

私の労働運動の原点は、動労青年部運動でした。役員を続ける過程で、松崎さんの「実践と理論」に触れました。約50年前の米空母ミッドウェイの横須賀母港化阻止闘争に参加した際、当時動労東京地本松崎書記長の挨拶に感動しました。この実践と理論が、今でも私を支えています。

もう1つの原点は、国鉄改革の闘いです。雇用を守る三本柱の闘いは、組合員の血のにじむ闘いを抜きには語れません。動労本部松崎委員長の先見性、強いリーダーシップ

私は、議員バッチは外しましたが、東海労魂は永遠です。OB会、岐阜県9条連活動、地域のボランティア活動は続けています。体力の続く限り、皆さんと共に闘います。



# 御用組合との差は歴然!

## JR東海労OB会福島会長



現職の組合員が少ない中で、会社からの熾烈な攻撃に怯むことなく闘い

を展開し、年休裁判などで勝利してきています。他労組組合員からも共感されています。頭が下がります。

森下さん、松山さん、水野さん、田川さんの4人の存在が労働組合とは誰のためにあるのかについて、JR東海ユニオン

に突きつけています。

『アクセス』676号677号の、JR連合政所事務局長とJR総連熊谷書記長のインタビュ記事を読めば、労働組合は誰のためにあるのかはよく分かります。JR労働者が安全に希望を持って働ける職場を追求し、大衆運動としての連帯をつくり上げていくことが大事です。OB会は、微力ですが4人や現職の仲間を支えています。

# 職場と第三者機関を結合させた闘いの成果を確認!

## 全代議員が実践的な発言

◆刀谷さん加入で各方面からの檄ありがとうございしました。超勤強制拒否に対する処分、団体交渉を行い、加入を決定された。

◆JR東海労組川崎支部との交流を行った。職場実態の報告を受け議論した。今後も交流をつくりていきたい。

◆N700Sでは簡易



◆SMTでは年休が入らない。年休の性格や裁判勝利の内容などを記載したピラを配布した。

◆本橋裁判のプロジェクトを立ち上げ、活動してきた。会社は準備書面を出向対象者について明らかにしたが、苦情処理

◆組合員が「病気が治れば車掌に戻る」と言った所長に騙され、CMCに54歳原則出向を適用され出向に出された。CMCに出向問題と職場改善を含めた要求を出し、団体交渉を開催した。

◆3両以上のワンマン

◆業務用スマホに車いす対応の手配書がアプリ化される。集合の訓練ではなく個人対応でお金をつけない。業務改革というケチケチ運動だ。

◆地本主催の楠さんを囲む会を開催し、多くの組合員・OBが参加した。また、パンフレットも作成した。

◆年休裁判は勝利した。空白裁判と併せて、分会全員で空白日の未払い賃金請求を行った。労働局預けになっている。

◆1月25日、大雪の大幅遅延で、休憩なし連続乗務と勤務終了後の休憩時間を強要された。労基法違反である。分会は労基署に相談に行った。

◆庁舎内の電気時計が全て撤去された件で管理者と話をした。社員からは不便との声が相次いだ。本部・地本・分会で情報を発行し、申し入れも行った。会社回答は「設置しない」であった。安全衛生委員会によって、業務とは関係ない場所であるが、時計設置を実現させた。

◆ワンマン化により余剰となった車掌の活用策は、ジョブローテーションといえる。問題の共有化のため、名古屋地本との連携を追求する。

◆新横浜駅組合掲示板獲得のために、苦情申告や団体交渉の申し入れを行った。会社は団体交渉を拒否し、「回答しないのが回答」とまで言っている。労働委員会は、労働協約(団交事案)が労基法に抵触しているのではないかと見解を示した。東京駅の組合掲示板撤去についても、抗議や申し入れを行ってきた。

◆柳楽裁判で最高裁は上告不受理を決定したが、裁判を通じて組織強化を勝ち取った。年休は労働者の権利であることを出裁判は、診断書強要の問題を広げてきた。

◆大阪台車検査車両所では、更衣室から点呼場

◆年休裁判は勝利した。年休の完全取得は労働者の権利である。『週刊金曜日』の竹信先生の論文は非常に良かった。

◆リニア静岡訴訟の傍聴と報告集会に参加した。「JR東海の御用組合ではなくリニアに反対している労働組合が来て

いる」と紹介して頂いた。

◆年休裁判東京訴訟は勝利した。大阪でも勝利判決が出されると確信する。年休に関する裁判をあらゆる角度から追求してきた。

◆石川さん、京力さんが不当解雇をされて30年目となった。9月に集会を開催する。

◆年休裁判を支えてもらい感謝する。職場で年休裁判の成果が出ています。しかし、新しく配属になった乗務員は、25日の勤務発表が当たり前と

# 楠さん、大変お疲れ様でした





# 全ての闘いを組織拡大に結実させよう!

## 本橋書記長総括答弁



今大会で私たちは、スローガンにある通り、これまで培ってきた団結力を基礎に、当たり前の労働運動を職場から展開し、平和・人権・民主主義を守り抜き、安全、安心、ゆとりを持って働き暮らせる社会の実現に向けて奮闘する方針が確認できたと思います。

2023 J R 総連春闘で私たちは、総連方針の統一要求・統一行動に基づき、ベア10,000円、定期昇給6,000円、夏季手当3,5ヶ月などの要求を柱に闘いました。しかし会社は、JR各社の中で最高益を上



げているにもかかわらず、ベア1,000円という超低額回答を行いました。更に会社は、調整手当の未支給地に10,000円を支給することをもって、全社員にならば、あたかも7,200円のベアをするかのようなマスコミ発表をしました。

春闘における否定的な現実には、JR連合・JR東海ユニオンが妨害物として存在しているからというものは間違いありません。私たちは労働条件が改善されないのは、JR東海ユニオンが存在するからだと宣伝していかなくてはなりません。私たちは、他労組組合員からも大きな声をつくり出すために情宣活動を強化してきました。この情宣活動は、各地本、各分会で積極的に展開し、他労組組合員に共感の輪をつくり出してきました。

私たちが54歳原則出向に反対する闘いなどで、第三者機関を活用した闘いを展開してきました。3月8日には、『職場闘争と第三者機関を結合させた闘いの成果と課題』を確認する集会を開催しました。この集会でも述べましたが、私たちは第三者機関を活用した闘

いがすぐにできなかったわけではありませんでした。職場で会社からの攻撃を受け、その怒りを第三者機関に打って出ること、労働委員会ならば自前で闘えることを知りましたがハードルが高いと感じて躊躇した時もありました。審問では自らが管理者を追及してきました。職場に帰ればその管理者から逆に攻撃されるのではないかと躊躇もありました。しかし私たちは仲間との議論を通じて乗り越えてきたからこそ今があると感じています。



今、JR東海労組の仲間に対して、人間破壊の強制転勤が行われていきます。会社との交渉で解決することは難しいのかもしれないですが、JR東海労組の仲間の闘いに連帯していきたくて考えています。会社の「業務改革」により、駅の無人化やAI化、ワンマン運転の拡大などが更に行われ、鉄道部門で2,500名の要員が削減されようとしています。車いすのお客様が新幹線への乗降をスムーズに行うための簡易スロープの不具合が発生しており、私たちが会社に改善を申し入れても「問題は無い」として不具合のまま使用され続けています。そのため、5月には車いすのお客様が降車時に転倒し、大事には至りませんでした。救急車で運ばれる事故が発生しています。

J R 総連第39回定期大会で、私はこの問題解決に向け、JR総連へ推薦議員懇談会所属の議員を通じての省庁交渉などを要請しました。JR総連も取り組むことを答弁して頂きましたので、今後、本部も関係地本と連携を取りながら問題解決に向けて取り組んでいきます。リニア中央新幹線の2027年開業はもう無理です。このままでは経営が破綻しかねない状況は変わっていません。今、静岡工区だけが着手で遅れているのを静岡だけのような印象操作がされていますが、他の工区でも相当遅れていることは

周知の通りです。会社は頑なに認めませんが、ジャーナリストの取材によればこれは曲げようのない事実です。7月18日には「ストツプリニア!訴訟」の判決が東京地裁から言い渡されます。この間私たちは、裁判所前の集会や、裁判傍聴、報告集会に参加させて頂きました。判決言渡しにも、ぜひ多くの組

員と共に参加したいと考えています。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻から1年3ヶ月以上が経ちますが、この戦争が収束する兆しは全く見えません。西側諸国とロシアの代理戦争になって泥沼化しているのが現状ではないでしょうか。私たちは何と申されようとも戦争には反対です。戦争となれば

犠牲になるのは市民・労働者であることは間違いないです。こういつたことをしつかり押さえつつ、他労組組合員に、私たちがなぜ平和を求めるとするのか、憲法9条を守ろうとすのか、しつかり訴えていきたくて考えます。

J R 東海労運動と組織の発展に向けて共に闘いましょう。

## 2023年度役員体制

役職名	氏名	所属地本
執行委員長	淵上 利和	新幹線地本
執行副委員長	成田 隆浩	新幹線地本
〃	斉藤 孝紀	新幹線地本
〃	高山 浩	静岡地本
〃	畑野 浩孝	新幹線関西地本
〃	杉澤 秀則	新幹線地本
〃	半場 弘恭	静岡地本
〃	荻野 隆一	名古屋地本
〃	笹田 伸治	新幹線関西地本
書記長	本橋 浩司	新幹線地本
総務部長	山内 道廣	新幹線関西地本
組織部長	松山 文成	名古屋地本
会計監査委員	山本 修	新幹線地本
〃	宮澤 克明	静岡地本
〃	渡邊 幹夫	新幹線関西地本

※役職の指定は第1回中執で確認



## 退任された役員 大変お疲れ様でした

